

【専門科目領域/専門基礎科目群/人間の構造や機能と疾病の成り立ち】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
人間の健康と社会・心理的適応		必修	2	2	前期
担当教員	研究室	電子メールID	オフィスアワー		
今村 亨	教員控室	kango	授業終了後に質問等受付		
授業の目的・概要	健康やストレスには心理的・社会的側面が不可分に関わっていることを理解し、自分自身、また将来的に患者・利用者の健康増進に寄与できるようになることが本授業の目的である。人間の健康と社会・心理的適応について、資料を通して理解を深める。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	心理学的発想を常に意識して臨んで欲しい。新型コロナウイルス感染症状況次第だが、可能ならばディスカッションやグループワークも実施する。				
教科書	特になし				
参考書	・ポジティブ心理学の挑戦 /著:マティン・セリグマン /監訳:宇野和村 /ディスカヴァー・エデュケーション ・ストレス・マネジメント入門[第2版] /著:中野敏子 /金剛出版				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	社会・心理的不適応が発生する機序とその意味を理解し、習得する			NS(1)	
②	自他共に尊重したコミュニケーションの形式を理解し、日常で実践できる			NS(2)	
③	他者の社会・心理的不適応を適切に把握することができる			NS(3)	
④	他者の社会・心理的不適応に対し、対処法を提示することができる			NS(4)	
⑤	健康と社会・心理的適応を支える関係者／他業種の人々の役割を理解できる			NS(4)	
⑥	健康と社会・心理的適応についての学習・調査・研究を自分なりに進めることができる			NS(5)	
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	「健康と社会・心理的適応」をどう考えたら良いのか	講義	第1回の資料を精読する。自身の日常生活との関連を考察する。	3	
2	ストレスとは	講義	第2回の資料を精読する。自身の日常生活との関連を考察する。	3	
3	動機づけ	講義	第3回の資料を精読する。自身の日常生活との関連を考察する。	4	
4	楽観主義／悲観主義	講義	第4回の資料を精読する。自身の日常生活との関連を考察する。	4	
5	発達、性格、感情	講義	第5回の資料を精読する。自身の日常生活との関連を考察する。	4	
6	自己に対する評価・他者からの影響	講義	第6回の資料を精読する。自身の日常生活との関連を考察する。	4	
7	ユーモア	講義	第7回の資料を精読する。自身の日常生活との関連を考察する。	4	
8	対人関係、ソーシャルスキル	講義	第8回の資料を精読する。自身の日常生活との関連を考察する。	4	
9	態度変容と説得	講義	第9回の資料を精読する。自身の日常生活との関連を考察する。	4	
10	ストレス・マネジメント実践	講義	第10回の資料を精読する。ストレス・マネジメントを実践する。	5	
11	セルフ・コンパッション	講義	第11回の資料を精読する。セルフ・コンパッションを実践する。	5	
12	生活習慣	講義	第12回の資料を精読する。自身の日常生活との関連を考察する。	4	
13	電子デバイス	講義	第13回の資料を精読する。自身の日常生活との関連を考察する。	4	
14	非日常、非常事態の対応	講義	第14回の資料を精読する。自身の日常生活との関連を考察する。	4	
15	プログラム発表	プレゼンテーション	プレゼンテーション内容を協議し、作成する	4	
試	定期試験				

【専門科目領域/専門基礎科目群/人間の構造や機能と疾病の成り立ち】

		達成度評価						
総合評価割合(%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
総合力指標	知識・技術力	33	42	25	0	0	100	
	思考・推論・創造する力	23	0	0	0	0	23	
	思考・推論・創造する力	10	12	0	0	0	22	
	協調性・リーダーシップ	0	0	5	0	0	5	
	発表・表現伝達する力	0	10	5	0	0	15	
	コミュニケーション力	0	0	5	0	0	5	
取組みの姿勢・意欲	0	10	5	0	0	15		
問題を発見・解決する力	0	10	5	0	0	15		
		評価のポイント					フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点						
試験	①	✓	学期末に実施する筆記試験にて評価する。33%を配点する。資料、ノート等、持ち込み可とする。試験の傾向については、別紙にて出題例を詳細に伝える。					解答用紙を返却すると共に、正解(例)を配布する
	②							
	③	✓						
	④							
	⑤	✓						
	⑥							
レポート	①	✓	授業毎の最後に約10分間の「小レポート」を実施する。各回3%を配点する。第15回には小レポートは実施しない(3×14回=42%)。					
	②							
	③	✓						
	④							
	⑤	✓						
	⑥							
成果発表	①		第15回に実施する「プレゼンテーション」の内容によって評価する。プレゼンテーションはグループにて「健康と社会・心理的適応」に資するプログラムを発表する。グループ決定方法、プログラム内容の指針、プレゼンテーション方法、評価基準等については、別紙にて詳細に伝える。					各グループに対し、評価基準に沿った評価を書面にてフィードバックする。
	②	✓						
	③							
	④	✓						
	⑤							
	⑥	✓						
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
備 考								
他担当教員	なし							
教員の実務経験	臨床心理士として15年の臨床経験、山梨県スクールカウンセラー等として15年勤務							
実践的授業の内容	臨床心理士として、多種多様な人々の日々を“より良い”ものへするための前提としている知識を余すところなく披歴する。							
その他	今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更があり得る。							